

家庭用ミミズコンポスト設置の仕方

1) 考え方

シマミミズ 500 g (1250 匹) を購入した場合、一日当たりの生ごみ処理の目安量は 250 g となります。ミミズの量より生ごみの投入量が多いと、酸素供給の不足など環境悪化によりミミズが窒息してしまうため、処理がすすみにくくなります。

ある程度の大きさのコンポストを利用し、よりミミズの生息環境に近い状態、ミミズにとって活動しやすい状態を維持することが、生ごみ分解を促進する環境づくりにつながります。環境が整いしだい、生ごみの投入量を少しずつ増やしていきます。生ごみの投入量は、シマミミズの投入量と一緒なので、最大でも 500 g までです。シマミミズが増えてきたら、投入量も増やしていきます。

ミミズコンポスト写真



ミミズ 500 g (1250 匹) を購入した場合の、コンポストのサイズの一例です。
(サイズ縦 57 cm 横 74 cm 高さ 67 cm)

2) 設置の仕方

過度な庫内温度の上昇を避けるため、なるべく直射日光の当たらない場所に設置します。コンポストは直接土の上や芝生の上に設置できるよう、底がないものが良いでしょう。土の上に直接設置することで、季節ごとの温度・湿度の状況変化により、コンポスト内だけでなく土深くもぐることも可能となり、ミミズが活動しやすくなります。また、酸素供給も可能なため、生ごみの処理スピードが早くなります。(コンポスト設置前に、金網、新聞紙を設置場所に敷いておくと、ミミズの大敵であるモグラ対策に有効です。)

ミミズコンポストの設置されている写真



3) ミミズコンポストの中に入れる詰めもの

シマミミズ 500 g (1250 匹)を購入した場合のコンポスト内の環境づくりとして、腐葉土 60 k g と、やしがら 10 k g シマミミズ 1250 匹、土 500 g をミミズコンポストの中に投入します。

ミミズコンポストの中身の写真



4) 虫対策

コンポスト内部の詰め物の上に不織布などをセットすることで、アメリカミズアブ、コバエ、その他の害虫が入ってしまうのを防ぎます。生息環境を整えることで、シマミミズの活動を活発化させます。

コンポストにネットがかかっている写真



5) 生ごみの投入の仕方

ガーデンフォーク等で、25cmくらいの深さのところに生ごみを投入し、投入後はきちんと土をかぶせて、生ごみが露出ないようにします。生ごみが露出していると、腐敗し悪臭を放ったり、害虫を誘引してしまったりなど、コンポスト内の環境悪化につながり、生ごみ処理の妨げになります。

ガーデンフォークの写真（普段使っているものです どちらの画像でも）



ガーデンフォークで生ごみを投入している写真



6) シマミミズを増やしたい場合や、生ごみの処理スピードを早めたい場合



投入する生ごみを、小さく刻んだり、フードプロセッサーで細かくすることで、生ごみの処理スピードを上げることができます。生ごみの投入量を増やすと同時に、シマミミズを増やすことも可能になります。

〔コンポストに入れた野菜くずの一例〕

白菜、人参、大根、シイタケ・えのきだけの石突、

長ねぎ、玉ねぎ、リンゴの皮、バナナの皮、コーヒーかす、お茶殻等

7) 夏の対策

水をホース等のシャワーで、コンポスト全体(中も含めて)1日 1回は散布します。

水を散布している間は、ミミズはコンポストの下の土中に潜っていき、過剰な水分も土中にしみこんでいきますので、散布しすぎるということはありません。

8) 秋～冬の対策

コンポストの中の土の量が減少してくるため、当社の腐葉土 20kg などを投入しコンポスト内の環境を整えます。状況に応じて、北風が吹きつけるのを遮ったり、湿らせた新聞屑(細く裂いたもの)を詰め物の上に入れ、庫内を保温・加湿したりなどの処置を施します。

9) これまでの失敗例

防虫ネットを設置していなかったため、害虫が集まってきてしまった。

生ごみが露出してしまったため、害虫が産卵してしまいミミズが逃げてしまった。

小さいコンポストの中で育てようとしたが、ミミズの量より、生ごみの投入量が多すぎてミミズが窒息してしまった。

家庭用ミミズコンポスト 野菜投入量

基本条件:(4人家族 夫婦、お子様2名)

ミミズコンポストサイズ:(サイズ縦 57cm 横 74cm 高さ 67cm)

シマミミズ:500g(1250匹)を基本条件としております。

期間:8月1日~31日の1か月間 合計 8485g

